

編集後記・Editorials

魚類学雑誌
52(2) 180

みなさま、はじめまして。片野 修さんからバトンを受け、今号から和文誌の主任編集委員を務めている佐々木ともうします。1996年の英文誌と和文誌の分離後、後者の主任は松浦啓一さん、後藤 晃さん、片野 修さん、そして私で四代目になります。「塩気」のある魚をつついている主任としては二代目となりますが、編集の過程で淡水魚の論文をたくさん読み、すでにすっかり塩抜きされてしまったような気分でおります。私の気分はさておき、会員のみなさまのご協力を得、魚類学雑誌は研究発表の場としてすっかり定着し、着実にその内容を充実させてきていると感じております。今後の発展に向け、ますますのご協力をお願いします。

魚類学雑誌52巻2号には総説1、本論文5、短報2、合計8編の論文が掲載となりました。魚類の視覚適応に関する総説はこの分野における近年の発展が一挙に把握できる力作で、会員の

みなさまにとってメリット大と考えています。総説の掲載には編集委員会も力をいれています。印刷費は25ページまで本会が負担し、別刷も50部が無料進呈されます。残念ながらあまりリッチとはいえない本会にあつては「大盤振る舞い」です。どなたか総説を書くのに適当と思われる方の心当たりがありませんでしょうか。一声おかけ願い、投稿を勧めてみてください。

52巻の編集にあたり、下記の方々に原稿の校閲でご尽力いただきました。ここに記してお礼いたします。

有元貴文、後藤 晃 (2)、原田滋雄、波戸岡清峰 (2)、久富修、今村 央、伊藤 明、岩田明久、加納光樹、川村軍蔵、本村浩之、河村功一、木村清志、北川忠生、北野 聡、昆健志、馬淵浩司、松本一範、宮 正樹 (2)、向井貴彦、大原健一、大竹二雄、斉藤憲治、酒井治己、坂本一男、佐々木邦夫 (2)、島崎光臣、清水孝昭 (2)、白井 滋、勝呂尚之、鈴木寿之、高橋大輔、竹下直彦、田子康彦、山川 武、山野上祐介。

(佐々木邦夫)